

『自分にチャレンジ！なかまと一緒にやってみよう！』

げんきの家作業所 支援員2名

はじめに

げんきの家作業所では身体障害、発達障害、自閉スペクトラムなど障がいの種別や年齢性別に関係なく様々ななかまが毎日一緒に仕事を行っている。下請けで行っている箱詰め作業や、医療用スポイドのバリ取り、縫製品の作業、花の配達などいくつかの作業があるが、障がいの特性などから全員が全ての作業に取り組めるわけではないのが現状としてある。そんな中で自助具を使用してできる作業を少しでも増やせないかという取り組みは何年か前から行っているが、今回はその中でもBさんが昨年入所してきた新しいなかまのAさんの仕事の様子を見て「自分もやってみたい！」と職員に言ってきたことから始めた取り組みを考察を含めて報告することとする。

簡単にBさんの紹介をしたい。

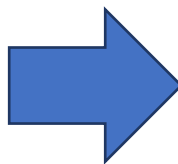
- ・20代女性
- ・療育手帳A1
- ・右軽度麻痺

#### 1. はし組に取り掛かるまで

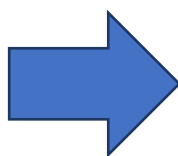
それまでは自助具を使用してはしを数える作業は行っていたが、はしを2本1組にして5組ずつ重ねて輪ゴムをかけるという作業は右麻痺の為、思うように使えないBさんには難しいと思い、行ったことがなかったが助具を使用して取り組めないかと考えるようになった。

#### 2. 最初の自助具

初めてのはし組はこの自助具から！



Bさんにとってどのような自助具が必要なのか職員にもわからなかった為、他のなかまの自助具を使用してはし組に取り掛かる。はしは2本を合わせて組み、5組を1セットとする必要がある。



初めは完成品を見てもどのように組むのか理解出来ず、何度もはしを動かしながら、尖っている方を山の形にすることなどを伝えはしの組み方を理解してもらえるようになった。Bさんにとってやりやすかったのか、Aさんが右が山になるようにはしを組んでいるのを見ていたからなのかは不明だが、左が山になるように提供しても自分で向きを変え、必ず右が山になるように組んでいた。この頃は机の上で2本1組にして枠の中に入れるやり方で行っていたが、ずれないようにする為の枠に引っ掛かりなかなか上手にいれることが出来なかった。

〈この時点での課題〉

- ① 2本1組で組み指でつまんで枠の中に端から詰めて入れていく必要があるがその際に倒れてしまうことが多い。
- ② 枠があっても見えづらいのか、枠までで終わりということが理解できていないのか、枠を超えて組んでしまうことがある。
- ③ 5組×5組ではしの向きを逆にして組む必要があるが上記の自助具では、1セット組終わった状態で自助具を回転しないと、はしを右山にすることができない。しかし、回転させる時に、はしが倒れてしまうことがある。
- ④ 重ねることはできるが、右手麻痺の為抑えが弱く崩れてしまうことがある。
- ⑤ 組んだ後に回転させるまで職員が声かけしないとそのまま待っている様子が見られる。重ねた後も職員が輪ゴムをかけていたのだが、自分から声をかけることは少なく待ちの姿勢を取ることが多かった。



下記のように改善してみた。

- ① 枠の下の部分を取り板に図を書く、2本1組の太さになるようにマスキングテープを5色選んで貼り目印とした。
- ② 5組目のはしの終わりにマスキングテープで目印をつけわかりやすくした。
- ③ 回転を簡単にできるようにする為に板上で組み片方の板を回転させて重ねるようにした。

改善した結果→①斜視があることから見にくい様子で効果がなかった。

②効果があったので、そのまま続行した。

③どこにも掴む所がないと回転させるのが難しい。

④については、枠は必要だがその仕切りの部分に指が当たり重ねることを困難にしている様子が見られた。指がしっかりと入るような遊びのスペースが必要なのではないだろうか。

この段階では短期間でいくつかの自助具を試しては不具合を改善していくということが多かった。Bさんも初めての作業ということで戸惑いも多く、職員と1つずつ確認しながら行っていった。

様々な作業がある為、毎日同じ作業を行うことは難しいがコロナ禍により外での作業が

減っていたので、週に何度かこの作業を行うことができBさんなりにコツがつかめてきたのか、少しずつはしが多かったり少なかったりなどの間違いや、はしの向きが違うなどの間違いが減るようになってきた。

### 3. 今現在も使用している自助具に変更



今までは前述したような理由で板を比較的大きな物にしてきたが、挿むところがないと却って回転することを困難にしているのではないかと考えたことや、目印のマスキングテープを越えてはしを組んでしまうことから、はしがちょうど5組入る位の大きさにし、それを2つに分けて提供してみた。しかし、今度ははしと道具がほぼ同じ大きさであることからやはり回転に問題があることがわかった。そ

こで、以前使っていた道具と2つに切り分けた道具のうち1つを合わせて使用することで今現在も使用している道具に落ち着いた。以前使用していた道具も持ち手の部分を手、指が入るスペースを広く取りはしが倒れないように短めに壁をつける。重ねるときに土台が動かないように下に滑り止めを貼り付ける、などの改良をした。

自助具はこの時点でほぼ完成となる。またコロナ禍により、今まではほぼ全員のなかまが一箇所にかたまり作業をすることが多かったのだが作業ごとにテーブルを分け、なるべく距離を保てるようにしたことで、同じテーブルで作業するなかまが自分と同じことをしているとBさん自身がより意識するようになったと思われる。Aさんの近くにいることでAさんのやり方を見て自分も同じようにできないかとする様子が見られた。組んだ後のはしを回転させる際も職員が促さなくてもAさんができていると自分も行おうとする様子が見られ、声かけをする回数が減り、組んだ後に輪ゴムをかけるのもAさんがしている様子を見て自分でしたいとの発言が聞かれるようになった。

#### 〈この時点での課題〉

- ① 自助具を改良したことや本人がコツをつかんできたこともあり、はしを組み重ねられるようになったが、輪ゴムをかける際に崩れてしまうことが多い。輪ゴムの種類にこだわりがなく太いゴムや細いゴムなど適当につかんで、かけていたが細いゴムはかけることが難しくかけようとしているうちに崩れてしまう。
- ② 自助具が2つに分かれていることではしを組んだ後に、(1)左手で重ねる→(2)左手で持ち上げる→(3)輪ゴムをつけるために右手に持ち変える→(4)左手で輪ゴムを探す→(5)左手で輪ゴムをつける→(6)左手と右手を使い輪ゴムがついていない方を左手の方に向ける、と工程が多い。その為、崩れやすい。



- ①太めの大きい固い輪ゴムにすることで組んだはしに一重でかけてもしっかりしている為崩れにくい。
- ② (1)→(2)→(3) (ここでできるだけ右端を持つようにする) →(4)→(5) (1つ目のゴムをつけたら右端の方までずらす、上記(6)の工程を行わず、そのまま2つめのゴムを左端につける) このように工程を減らすことで崩れにくくなった。

#### 4. さいごに

はし組みを始めてから自助具の改良や、職員やなかまと作業を行うことで随分スムーズにはし組みを行えるようになり、Bさんの自信にもつながったのか作業の時間が終わるとたくさんできた！と嬉しそうに見せてくれるようになった。その他の作業でもAさんや他のなかまが行っていることを自分もしたい！と言ってくることも増えた。元々Bさんは自分からこれがしたい、と伝えてくることは少なく意思表示が得意な方ではなかったのだが、後輩のなかまの存在はBさんにとって良い刺激になったのだと思われる。どうしたらできるのかBさんなりにAさんのやり方を見て真似をしようとしていることもわかった。なかま同士が良い刺激を与え合えるよう、職員もなかまの個性に合わせて配置や作業の種類を工夫していきたい。Bさんがはし組みを完璧にできるようになったかということそうではないのだが、今後もBさんのできることを増やしていく為に、どうしたらできるのか?を考えながら支援を行い、またなかま自身が自分でやり方を見つけられるような工夫をしていくことが大切だと感じた。